

開催年月日 令和元年8月6日(火)  
 質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員  
 答弁者 生物多様性担当局長 小林 隆彦  
 自然公園担当課長 本間 博人

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>一 自然公園の活用について</b>                      私からは、自然公園の活用について、伺いたいと思います。                      環境省では明日の日本を支える観光ビジョンに伴って、国立公園満喫プロジェクトとして、2020年までに訪日外国人数の国立公園利用者数を1000万人にすることを目指しています。                      北海道においても、阿寒摩周国立公園が、先行的、集中的に取り組む8つの公園に選定をされました。                      この選定に当たっては、弟子屈町が10年位かけて、観光事業者の枠を超えて、子供も含めた町民参加のえこまち推進協議会の活動であるとか、弟子屈観光塾など分野を超えた幅広い継続的な観光人材の育成によるエコツーリズム全体構想の策定が、選定の大きな基礎となったと私は認識しております。                      また、国立公園であり、世界遺産でもある知床などにおいてもすでに、保全と利用のバランスが課題となっておりまして、知床エコツーリズム戦略などが策定をされて、そのバランスをしっかりと協議しながら進めてきた実績があると認識をしています。</p> <p><b>(一) 自然公園の保全と活用のあり方について</b>                      それを踏まえて、自然公園の保全と活用のあり方について伺っていきたいと思いますが、環境省は、「ナショナルパークとしてブランド化」と言っていますが、どのような変化を地域に期待しているのか、さっぱりわかりません。                      私としては、例えば、他の国のナショナルパークと比較すると、全てを把握している訳ではありませんが、例えば、自然遺産である知床の国立公園の中にも、温泉旅館だとか漁業などの生業があります。自然と人が対峙するのではなく、人と自然が一体となっているところに私は日本の自然公園の価値があると思っています。もちろん、知床の国立公園の中でも、ゾーニングなので、明確にしっかり保全するところと、活用するところが分けられているのは承知していますが、むしろ、保全ゾーンでなくても北海道の温泉旅館、少なくとも自然公園内においてはすべて宿泊施設では合成洗剤は使っていない、あるいは、リネンはすべて、再生可能エネルギーによってクリーニングされているなど、質の高い環境規制をしっかりと確立している姿が、これからの世界へ、とくに欧米や富裕層に発信するには重要なポイントになってくると私自身は考えています。                      国立公園満喫プロジェクトなどによる機運を活用しつつも、しかし単に、入り込み数などの目標やその対応に踊らされることなく、真に、環境保全のための経費や、それを担う環境人材育成に対して、お金が循環するような、そういうしたたかな戦略が求められていると考えます。                      道としてキーワードとなってくるとは思いますが、これまでのエコツーリズムなどの推進のあり方をどのように総括しているのか伺います。                      また、自然公園において、どのようなしくみで活用の対価を利用者からいただき、どのように、それを地域に還元しようとしているのかなど、今後の自然公園の保全と活用について伺います。</p>	<p><b>(生物多様性担当局長)</b>                      自然公園の利用についてでございますが、道では環境省と連携して、平成28年から阿寒摩周国立公園において、観光振興を柱とした「国立公園満喫プロジェクト」を推進する中で、「最大の魅力は自然そのもの」をコンセプトに優れた自然環境を資源として生かす取組を進めており、「てしかがえこまち推進協議会」が設定したエコツーリズム推進全体構想に基づく取組や、自然、異文化、アクティビティーの要素を活かしたアドベンチャートラベルなども推進しているところでございます。                      このようなエコツーリズムの取組をモデルとして、他の自然公園においても自然環境だけでなく歴史や文化も含めて、幅広い観点からの活用を検討し、観光振興や地域振興など、地域の活性化につなげて行きたいと考えています。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(再質問) 弟子屈のエコツーリズムをモデルとしてということとはわかったのですが、エコツーリズムの推進のあり方をどのように総括しているのかというところをもう少しご答弁いただければと思います。</p> <p>実は今、ご答弁がありましたように、エコツーリズムなので、本当に地域の実情に応じた形でやっていくのが一番いいことはわかるのですが、やはり、道としての役割が非常に乏しいなあと考えています。というのは、皆さん自身がお自分がやってきた成果をきちんと認識していないと思います。例えば、先程狩猟のことがありましたが、例えば、鉛弾の持ち込みを禁止するというは日本の中で先駆けて北海道として行ってきたことですよ。ということは北海道庁として高い環境規制をかけることによって、まだその有用性とか実効性の問題に課題があったとしても、どういうお客さんに北海道が来て欲しいのかと明確にできる訳です。どういうところに訴求して、そういうメッセージを受けてくるお客さんは自然をないがしろにしたりはおそらくしないはずなんです。そういうエコツーリズムのこれからの役割をしっかりと広域自治体としてどうするかということを考えていただきたいと思います。</p> <p>(二) 広域自治体としての役割について 次の質問に移りますけれども、今そういう環境省の動きがあって、地方では例えば厚岸の道立自然公園を国定公園へ、日高の国定公園を国立公園に指定する動きがあります。自然公園を活用していきたいという自治体の期待が高まっているというふうに認識しています。</p> <p>先頃、お配りいただいた令和元年度環境生活行政の施策概要を拝見しました。「海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展」という項目に対して、インバウンドを含む国内外の観光客の受入体制整備を図るため、自然公園内の道有施設の計画的な整備について検討を進めます」とありましたけれども、余りにも、狭い閉じた獲得目標ではないかと私自身は思います。</p> <p>単に公園整備にとどまらず、今ご答弁ありました自然公園の本来の利用目的に応じて、公園活用していただくために、交通インフラを含めて、どんなアクセスが自然公園に望ましいのか、それを可能にするためにはどのような規制緩和、あるいは規制強化が必要で、そのために、道として何ができるのか、何をすべきなのかを、これは他部に渡るとは思いますが、そういうことを考えて発信しなければいけないと思います。</p> <p>そうしないと、自然公園整備の関係も道と市町村の関係は、ただ単に木道をあそこもやっているから僕たちの所も整備してください、でも、環境にとってどうだとか、予算がないとか、そういう関係性にとどまってしまう。</p> <p>そもそも自然公園を整備するとおっしゃいますけれども、極端な言い方をすれば、観光バスで乗り付けて、ハイヒールで観光してしまうようなお客様を含めて対応するための整備なのか、どんなお客様を対象に、どのような価値を発信しようとしているのかということ。道としては、明確にした上で、どんな視点で市町村自治体を応援するのかを明確にしていくべきではないかと考えています。</p>	<p>(生物多様性担当局長) エコツーリズムについてであります。エコツーリズムは、豊かな自然環境を壊すことなく、資源として生かし継続的に活用するものであり、地域振興や観光振興にも結びつきますことから、自然公園の適正利用を推進するうえで、重要な取組と考えています。</p> <p>道としては、地域の様々な主体と連携しながら、地域の特色や状況に応じた、エコツーリズムの推進に努めてまいります。</p> <p>(自然公園担当課長) 自然公園における道の役割についてでございますが、自然公園は、優れた風景地の保護と利用の増進を図ることなどを目的として指定されており、その価値を広く発信し、より多くの方々に利用して頂くことが重要と考えているところでございます。</p> <p>阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトでは、国の機関や市町村、関係団体による地域協議会を立ち上げ、幅広く意見交換しながら、新たな観点での利用の促進に取り組んでいるところであり、また、知床世界自然遺産地域では、関係機関に加え、アウトドアガイドや事業者も構成員とする検討会を開催いたしまして、適正な利用やエコツーリズムを推進しているところでございます。</p> <p>道といたしましては、これらの取組も参考に市町村をはじめ、地域の様々な主体と連携しながら、それぞれの地域の特色や状況に応じた利用の推進に努めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>例えばこれも他部にまたがった課題かもしれませんが、経済部ではアウトドアガイド資格の認証制度に取り組んでいます。自然公園の保全と活用について、幅広い分野を超えたこういうアウトドア事業者の方の意見をしっかりと改めて聞く必要があると考えます。</p> <p>広域自治体である道は、自然公園の価値をどういう方達にどのように伝えようとしているのか、どのような視点で市町村を支援するのか、アウトドアガイド事業者やそういった様々な意見聴取の必要性も併せて伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>私が事例としてお話した弟子屈や知床を参考に地域の皆さんとしっかり話していくとご答弁がありました。道としての役割ということですね、そもそも最初の質問でも問いかけさせていただきましたが自然保護をするにも、モニタリングだとか、伝え手も含めてお金がかかります、その財源をどういうふうにするのか、しっかり自ら北海道の価値を作っていくのか、そのために各地域のそれぞれのところで協議体があり、それは大切ですよとお話しましたが、道として例えば費用負担の問題だとか、これも環境生活部だけでは考えられないことなのかもしれませんけれども、自然公園の活用の気運をいかし、例えば弟子屈えこまち推進協議会が一つのモデルとして見に行っているスイスのチェルマットでは、隣町で車から降ろされ、チェルマットに入るには再生可能エネルギー使用のバスか馬車でないと入れないこととしている。だから、簡単なことではないかもしれないけれども、もうちょっと広域自治体としての、道庁としての、エコツーリズム推進するための役割をしっかりと考えていただきたいと思えますし、アウトドア事業者の意見聴取についても、今4年位の積上げがあるのですが、道内の分野を超えたアウトドア事業者の人たちがアウトドアフォーラムというネットワークが立ち上がって、いろんなインバウンドの人たちの様々なニーズを捉えてそこから得た対価をどうやって子供達に自然環境教育に回すかとか、そういう動きがもう地域の民間の中で出てきている。残念ながら今の道のアウトドアガイドの資格制度は、私の私見ですけど、例えば修学旅行を北海道に持ってくる事業者の人たちが、安心してツアーをそこに渡すということだけのためにのみ機能していない。本当の意味で北海道のアウトドア事業を推進していくための取組になっていないので、そういった意味でも分野を超えたアウトドア事業者に力をしっかり入れながら、広域自治体である道庁がエコツーリズムの方向性をしっかり作っていただきたいということを指摘させていただきたいと思えます。</p> <p><b>(三) ジオパークなどとの連携について</b></p> <p>最後にジオパークなどとの連携について伺いたいと思えます。ジオパークについて、現在、総合政策部が所管していると聞きましたが、もともとは、地質研究所の関係で経済部が所管していました。しかし、例えば、国立公園化を目指す日高のような自然公園は、ジオパークやエコツーリズムと、切ってもきれない関係ではないかと、私自身は考えます。</p> <p>自然公園の活用を進めるにあたり、ジオパークの推進などについて、これまで環境生活部ではどのように連携し取り組みを進めてきたか伺います。</p>	<p><b>(自然公園担当課長)</b></p> <p>庁内の連携についてでございますが、優れた風景が大きな魅力でございます自然公園の中には、日高山脈襟裳国定公園のように地質的な特徴を有し、ジオパークに認定されているアポイ岳など、特色ある様々な資質が混在していることで、その価値が高く評価されているところも多くあります。</p> <p>こうしたジオパークを含む自然公園につきましては、自然公園の保全と利用を推進する観点から、ジオパークを推進するため関係市町村が設置しております推進協議会と振興局を通じて連携してきておまして、今後とも関係部や地域との連携を密にいたしまして、様々な資質を結びつけたエコツーリズムの促進などに努めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(指摘)          最後に指摘させていただきたいと思っておりますけれども、なぜここで突然「ジオパーク」という、唐突だと思われる方もいるかもしれませんが、事例としてすごく象徴的だなと思ひまして、私も様似のジオパークを応援してるので出しました。例えば日高管内の観光というと、私の年代以上の人は襟裳岬と思っってしまうんですが、今、襟裳岬を知ってる人はいないんですよ。アポイだったり、ジオパークだったり自然系の方がヒットするんですよ。だけど、地域で観光のことを考えたり、地域振興を考えたりする時に、昔の人たちの頭で考えてしまってる。ある意味で新しい、今起きてきている、ジオパークもいろいろありますけど、そういうキーワードでこれからの北海道を考えていかなければいけないときに、みなさんがやってる仕事はすごく貴重なわけです。今の知事も「ピンチをチャンスに」と言われてますけど、ピンチ、ピンチと言うあまりに、北海道の素晴らしい価値を安売りしてほしくないわけです。その大きな力がみなさん方にあるということを強く申し上げて、引き続きいろいろな面でご質問させていただきたい。</p>	